

里山を活用したきのこの栽培及び増殖システムの開発

1 中核機関・研究総括者

長野県林業総合センター 増野 和彦

2 研究期間

2005～2007 年度（3 年間）

3 研究目的

林内で除間伐木を有効利用して原木栽培と菌床栽培を組み合せた新たなきのこ栽培を実践し、里山の活用を図る生産者が現れている。この取り組みの実用性を高めて技術を体系化するため、林内接種技術の簡易化、除間伐木を有効活用した栽培及び林内自然増殖技術の開発、遊休農地を活用した栽培技術の開発を図る。

4 研究内容及び実施体制

- ① 林内における接種技術の簡易化と里山からの遺伝資源の収集・選抜（長野県林業総合センター、（社）長野県農村工業研究所、星の町うすだ山菜きのこ生産組合）
多くの人々が里山に入りきのこ栽培を行うために、接種作業の簡易化を図る。
- ② 除間伐木等の資源を現場で有効利用する栽培技術と林内等への自然増殖を促進する技術の開発（長野県林業総合センター、信州大学、（社）長野県農村工業研究所）
除間伐木の有効利用のため、きのこの栽培と増殖法の開発を行う。
- ③ 里山周辺の遊休農地を活用した自然活用型栽培技術の開発（（社）長野県農村工業研究所、長野県林業総合センター、JA 上伊那）
里山周辺の遊休農地内において簡易施設を用いた栽培方法の開発を図る。
- ④ きのこの安全性の確認と流通特性の改良（（社）長野県農村工業研究所）
生産されるきのこに付加価値を付けるため、安全性の確認と流通特性の改良を行う。

5 目標とする成果

自然味に溢れたきのこ生産と里山の保全を実現する。

里山を活用したきのこの栽培及び増殖システムの開発

